武　一　中

令和４年１０月２５日
武蔵野市立第一中学校
学校だより Ｒ４－９

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

世界の解像度を上げる

校　長　　中嶋　建一郎

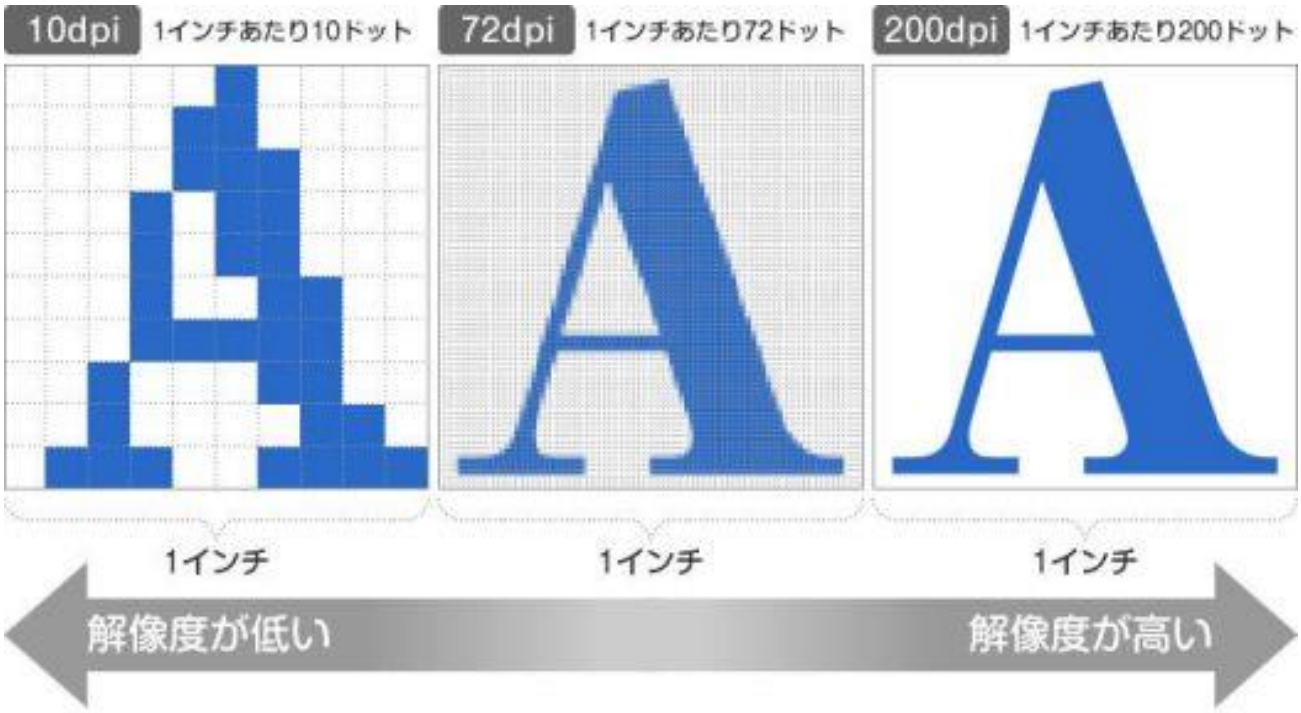
皆さんは、「解像度」という言葉を知っていますか。テレビの映り具合、鮮明さの基準として使われています。ハイビジョンやフルハイビジョン、４K や８K という解像度の基準を聞いたことがあると思います。テレビは光の点で画像を表現していますが、解像度が上がると画面を大きくしても粗さが目立たず、細かいものまで良く見えます。

さて、話は変わって、皆さんは「何のために勉強するのだろう？」と考えたことはありませんか。特に苦手な教科や嫌いな分野のことは、ついつい考えてしまいます。「やらなくてもいいんじゃないか」と。私も中学時代、苦手な英語について「別に外国に行かないから、英語はできなくてもいいんじゃないか」と考えていました。大人でも「数学なんていらない。小学校で習ったことが分かれば生きていける」と言っている人もいるので、「やる必要ないんじゃないかな」と考えてしまいますよね。でも、最後は「高校受験があるから」とあきらめて勉強することになっている人もいるかもしれません。または、それぞれの教科の先生が勉強の意義を話してくれていて、納得している人もいるでしょう。

ひとつ皆さんに紹介したい発言があります。パワポ芸人を自称しているトヨマネさんという人がツイッターで 2020 年 12 月にこんな投稿をしていました。「勉強って『頭の中に知識を詰め込む行為』ではなく『世界の解像度が上がる行為』だと思う。」という発言です。言い方を変えると、「勉強は、世界の解像度を上げるためにするもの」。私はこの斬新な言葉の感覚にとても納得しました。投稿には続きがあって「外国人観光客の会話が聞き取れたり、ただの街路樹が『花の時期を迎えたサルスベリ』になったりする。この『解像度アップ感』を楽しめる人は強い」とあります。英語のリスニング力が高まれば外国人観光客が英語で会話している内容がわかります。理科で植物の名前や生態を知ったら今咲いている花は何かがわかるのです。今自分がいる世界は同じなのですが、見え方や感じ方が変わる、細かいところまで見えてくる。感じられる。それが「解像度が上がる」という表現で表されているのです。

皆さんも自分の好きな世界の解像度は高くないですか。趣味の世界、アニメやゲーム、楽器演奏、スポーツなど、他の人は知らない細かいところを知っていて、それがわかる、見える、聞こえる状態だと思います。そこに楽しみを見つけられるかどうか。

このツイッター投稿には返信（リプライ）もたくさんあって、その中に「勉強は、面白いと感じるものを増やすためにするのだと考えていた」というものもありました。勉強は何のためにするのかの答えはいろいろありそうです。トヨマネさんは２０代です。皆さんの感覚に近いと思い紹介しました。

◇◇一中生の活躍◇◇

【吹 奏 楽】　第２２回　東日本学校吹奏楽大会　　銅賞